

## 平成19年度 第1回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

1. 日 時 平成19年8月1日(水) 13:30~15:30

2. 場 所 市役所議会棟 全員協議会室

### 3. 議事概要

報告事項(1)平成19年度市民意向調査結果(速報)について、事務局から説明。

質問・意見 なし

報告事項(2)北海道の新しい総合計画(原案)について、事務局から説明。

質問・意見 なし

協議事項(1)新しい総合計画策定について、事務局から説明。

質問・意見

【会 長】新しい総合計画では目標を明示していくという説明があったが、これまでもそうした考え方に基づく取り組みは行われてきており、新しい総合計画では、本格的に取り入れていくという意味だと理解している。

【委 員】財政状況や少子高齢化などを踏まえると、市民協働の視点はこれから益々重要になる。説明資料では協働をもっと前面に出しても良いのではないか。また、資料では新しい総合計画が国や道の上位計画にぶら下がるイメージに見えるが、自治体には独自性があり、双方向のイメージになるように修正したほうが良いのではないか。

【事務局】策定方針(案)では市民協働の考え方を前面に出している。また、国や道の計画の考え方も取り入れていくという意味であり資料は修正したい。

【委 員】策定方針(案)を決定するところはどこになるのか。

【事務局】庁内、審議会からの意見を踏まえ、最終的には市が決定するものである。

【委 員】事業は3年計画を毎年ローリングするということだが、事業を3年以上かけて

やるものはどうなるのか。

【事務局】事業を進めながら毎年評価を行いうこととなる。評価を踏まえ、やめる事業もあれば、新規に実施する事業もあるものと考えられる。

【会 長】政策個別目標と施策目標との関係はどうなるのか。例えば施策目標が達成されないのに満足度が上がるということも考えられる。必ずしも双方の指標が関連しない可能性もある。

【事務局】そのような場合は、政策目標の実現手段として施策の選択が適当であったか検証することになる。

【会 長】政策の目標と施策の目標の達成度がズレをきっかけに問題を顕在化させることが重要。政策の指標がよければ施策も正しいとする考え方はダメであり、ここは重要なポイントになるものと考えている。

【委 員】手段を実行するところが目標を立て実行し評価するという形でなく、評価に第三者機関が関与することも必要と考えるがいかがか。

【事務局】他の自治体で外部評価を行っているところもあるが、事業の評価についてはその内容に精通している必要があり、また作業も膨大なものとなることから、十分に機能していないところが多い。作業アンケート調査や審議会の論議などを通して市民の意見を取り入れていくことが基本になるものと考えている。

【委 員】分野毎のコンサルティングという視点も必要。行政では考え付かない選択肢もあるかも知れず必要なことと思う。

【事務局】今後の検討課題としたい。

【会 長】我々自身をもっと勉強する必要がある。指標の設定についても十分な論議が必要である。仕組みだけでは問題解決はできない。目標を明示する総合計画になることで我々の役割が益々重要になってくるものと思う。

【委 員】推進計画をローリングして行く中で、市民をどう巻き込んで行く考えか。

【事務局】今年から予算編成においても各部の自主性に任せる仕組みを導入している。推進計画の策定においても市民と直接接している各部が市民ニーズを把握し手法について判

断していくこととなる。個々の事業の決定への市民参加は難しいが、中間年で基本計画を見直す際には何らかの市民の関与が必要と考えている。

【会 長】これからは、各部が計画や予算も任されるようになり、目標に対する成果で管理されるようになるということだと思う。

【事務局】大和市など、計画策定後も市民が推進にかかわっているところもあるが、帯広市では、まず計画づくりに参画をいただくことが重要と考えており、推進段階での参画は市民意向調査などを通じたものにならざるをえないと考えている。

【委 員】推進計画を毎年ローリングで策定するのは、先が不透明だからではないか。そこは柔軟にしておく必要があるのではないか。

【会 長】市民ニーズを色々な場面で聞くこと良いが、意思決定の中に市民が参加できるのかということだと思う。

【事務局】施策を担当する各部には、これまで以上に市民の意見を聴き、ニーズを把握することが求められてくる。第3者評価の必要性は委員の言われるとおりであるが、推進計画全体について直接的に関与するのは難しく、手法についてはよく考える必要がある。

【委 員】アンケート調査は郵送で行うのか。

【事務局】市民や団体を対象としたものは郵送。企業を対象としたものは商工会議所の会報に折り込む予定。

【会 長】市民ワークショップの提言の取り扱いについてだが、審議会としてはストレートに答申に反映させるということではなく、あくまでも議論の基礎として活用するということでよいか。

【事務局】そのとおりである。

【会 長】協議事項については事務局案のとおり了承してよいか。

(一同了承)

以上